

オビラメの会・活動報告会

「南限のイトウすむ 尻別川」はいま



撮影：足立 聡

日時 2025年10月19日(日) 18:30～20:30

会場 **パタゴニア札幌北ストア**
札幌市北区北13西4-2-30

参加費 無料

定員 40人 事前登録をお願いします。
満席になり次第、締め切ります。

登録フォーム



絶滅危惧種イトウの生息南限として知られる尻別川で、地元の釣り師や研究者たちが取り組む「オビラメ復活30年計画」(2001～2030)が、最終ステージに差しかかっています。流域のリゾート開発や気候変動など、新たな課題が浮かぶ中、四半世紀の活動成果を振り返りつつ、「尻別川の未来」を語り合います。「オビラメ」は、地元の釣り師たちが尻別川のイトウを呼ぶときの名前で、アイヌ語に由来すると言われています。

プログラム(変更される場合があります)

スライド&トーク「南限のイトウすむ尻別川はいま」

報告 川村洋司(オビラメの会事務局長)
足立 聡(写真家)
平田剛士(フリーライター)

パネルディスカッション「だれが尻別イトウを守るのか」

パネリスト 坂田潤一(「季刊釣道楽」編集人)
木村聖子(倶知安町議会議員)
山根敏夫(オビラメの会副会長)

主催 尻別川の未来を考えるオビラメの会
<http://obirame.sakura.ne.jp/index.html>

絶滅危惧種イトウ尻別川個体群

復元なしとげオビラメの会が解散するまで

あと1898日



自然繁殖地の数 **2/280** 支流

「見まもり隊」の繁殖地保護 **15** 季連続

尻別川水系に現存するイトウ自然繁殖地2カ所のうち、中流域に接続するX支流(河川名非公表)では、2010年春、この支流としてはほぼ20年ぶりにイトウの自然繁殖が再開しているのが確認されました。「オビラメの会」は翌2011年から、繁殖期に合わせて、地元自治体や河川管理者と協働しながら、この繁殖地で「見まもり隊」活動を続けています。

イトウ再導入地点 **7** 支流 **10** カ所

再導入回数 通算 **25** 回

再導入したイトウ稚魚の数 計 **20,300** 尾

人工採卵・人工授精の成功回数 通算 **26** 回

魚類が往来可能なように改修した落差工 **5** 基

採卵に成功したメス親魚数 **のべ54** 尾

精子を提供したオス親魚数 **のべ46** 尾



イトウ再導入実験(2004年～)の舞台・倶利伽羅川で、地元の倶利伽羅町役場や後志総合振興局と協働しながら、魚類の往来を妨げていた5つの農業用落差工(堰)にスリットを設けました。2012年春、放流イトウたちがこれらのスリットを通過して上流部で繁殖行動をとっている姿が初めて確認されました。

再導入計画を支える「有島ポンド」

再導入のための放流魚は、1998年から2003年にかけて尻別川で捕獲された野生イトウたちのうち、「デカ」「ササキサン」「ノリカ」(いずれもメス)から採取した卵に、同じく尻別川で捕獲された「チビ」(オス)の精子を受精させて生まれた子どもたち、またその人工孵化魚を両親にもつ、尻別川固有の遺伝子を引き継ぐイトウたちです。

オビラメの会は、放流稚魚を生産するために「有島ポンド」(ニセコ町有島記念公園内)で親魚約25尾を飼育しています。



再導入イトウの自然繁殖初確認 **2012** 年 **5** 月 **世界初**

再導入第2世代の自然繁殖初確認 **2019** 年 **5** 月

当会は、絶滅危惧種イトウの北海道尻別川個体群復元を目指して活動するにあたり、国際自然保護連合「再導入と保全移植の指針」(IUCN/SSC (2013). Guidelines for Reintroductions and Other Conservation Translocations. Version 1.0)に準拠しています。

尻別川のイトウ保護にご支援を！



尻別川の未来を考える
オビラメの会



会長・吉岡俊彦 副会長・山根敏夫 事務局長・川村洋司

〒048-1511 北海道虻田郡ニセコ町ニセコ315-198

電話 090-8279-8605(川村) <http://obirame.sakura.ne.jp/index.html>

H.FUJIWARA

早春の躍動 画・藤原弘昭